

足立区外国人実態調査 調査結果(速報)

令和4年2月

足立区 地域のちから推進部 地域調整課 多文化共生

1 調査概要

調査目的

外国人の実態や生活上の困りごとを把握し、その結果を踏まえた事業の構築を検討する

調査対象

20歳から59歳までの区内在住外国人の中から、国籍別・在留資格別人口比率等を勘案して、5,000名を抽出

調査方法

調査票（日本語と5ヶ国語）を対象者へ送付、郵送またはWebで回答

調査期間と回収状況

調査期間：令和3年10月7日～令和3年11月1日

回収数：1,456件(調査票 1,026件(70.5%) Web 430件(29.5%))

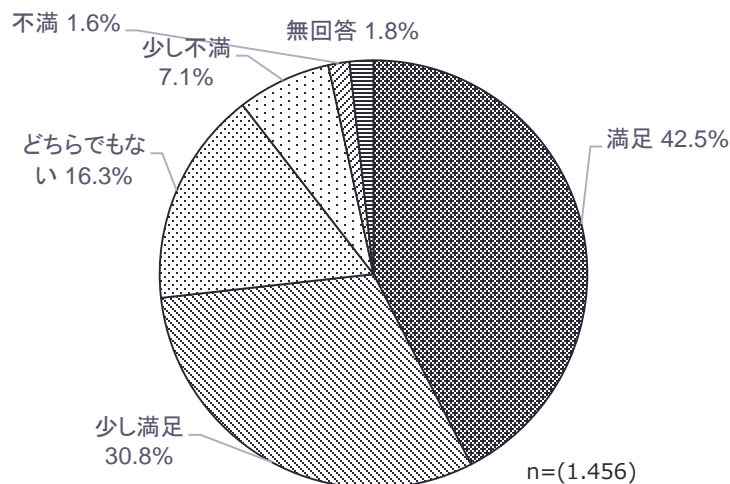
回収率：29.12%

※ 対象者を抽出した際の国籍、在留資格、年齢等の各比率とほぼ同じ比率で回答を得ることができた。

2 調査結果の全体像

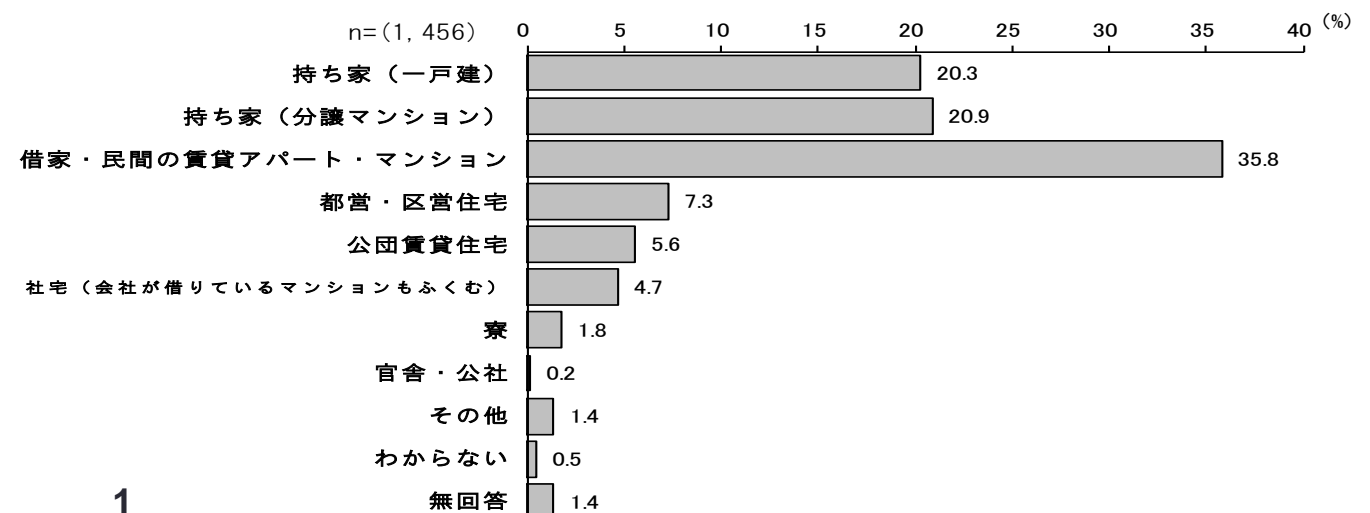
●生活満足度

生活満足度は高い傾向にある



●居住形態

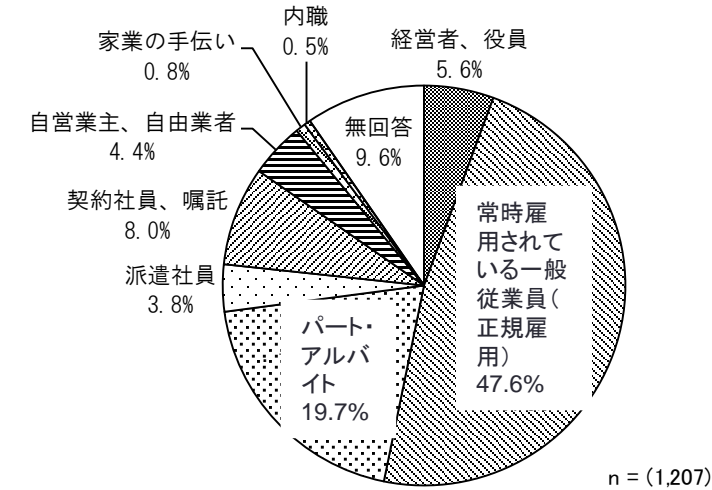
持ち家率は4割を超える



2 調査結果の全体像

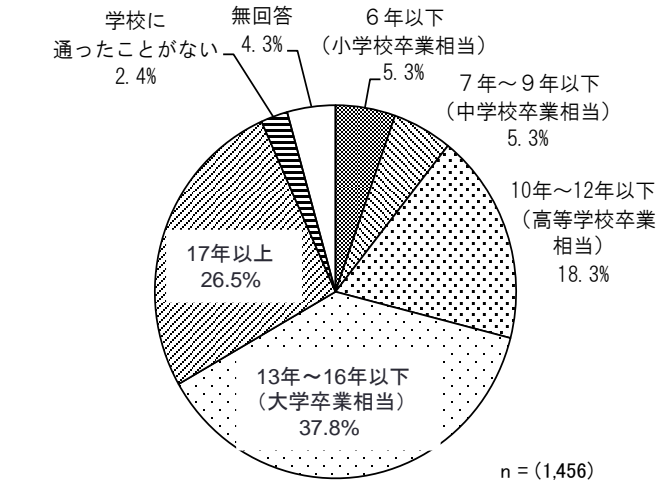
●就業状況

約半数が正規雇用で就業



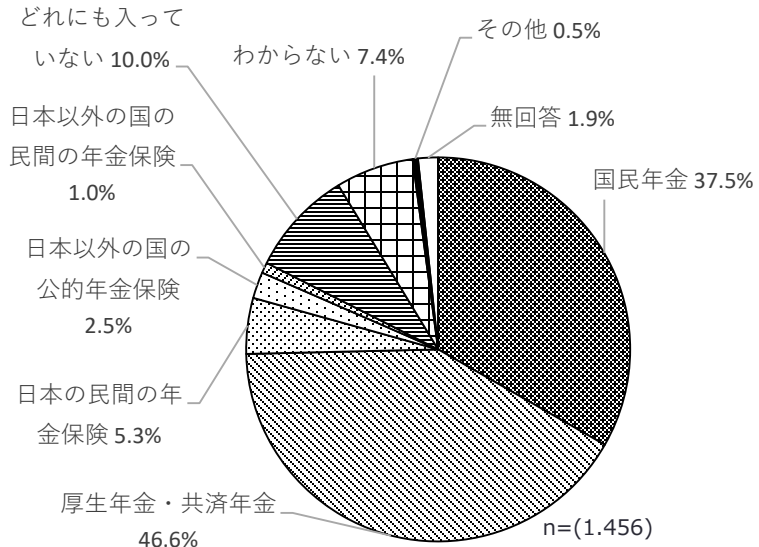
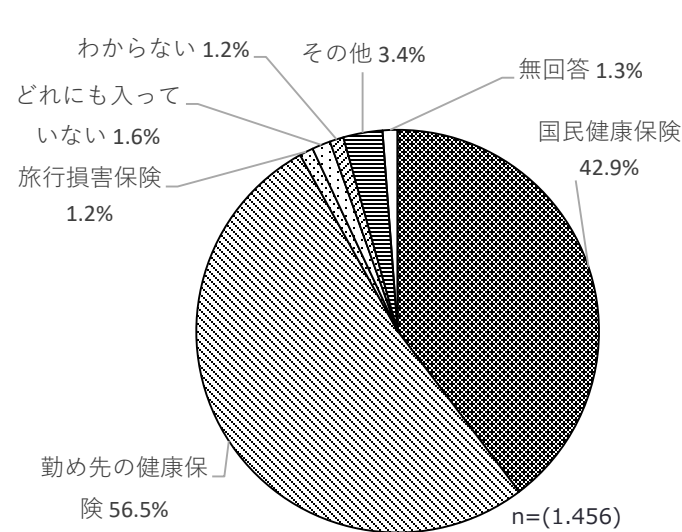
●就学年数

半数以上が大学卒業相当以上の学歴がある



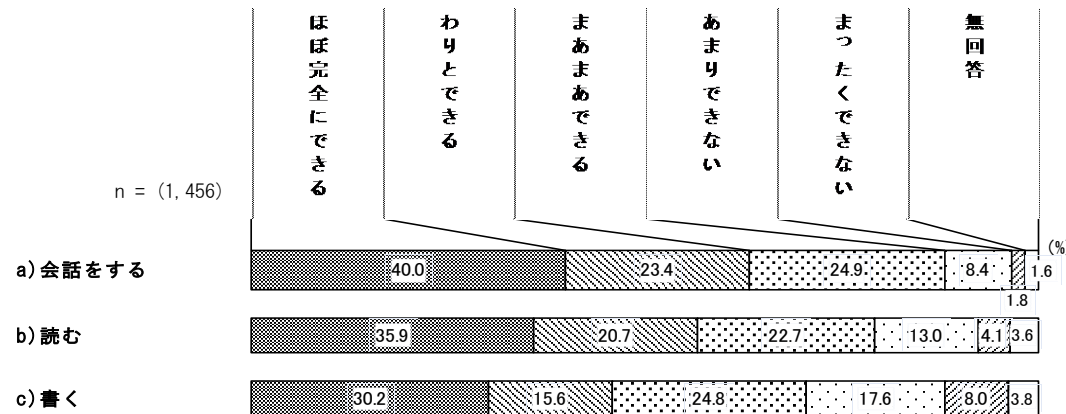
●医療・保険

健康保険・年金の加入率は高い傾向にある



●日本語レベル

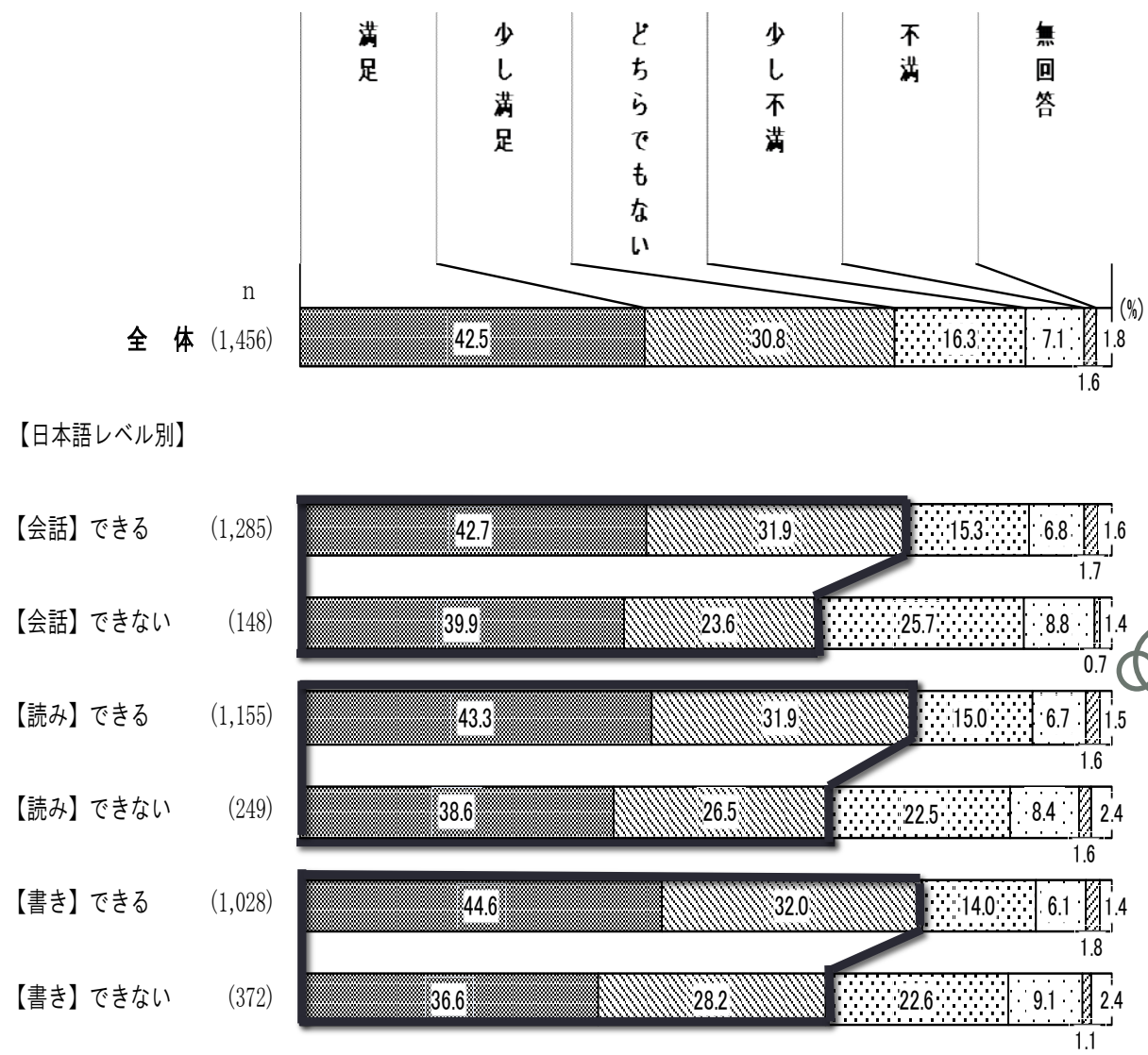
日本語ができる割合は高い傾向にある



全体的に見ると、生活に支障のない程度に日常会話ができ、職業や住まいなど安定した生活基盤を持つ外国人の割合が高い。

3 現時点における推察

●日本語レベル別で見る生活満足度



言葉が不自由なために生じる **主な困りごと**について、次ページ以降に記載する。

日本語ができる層とできない層を比べると、できない層の満足度が低い傾向

国籍や在留資格との関連性など、学識経験者の協力のもと **詳細な分析**を継続していく。

4 日本語能力が不十分な外国人に関する集計・分析結果と今後の取り組み

日本語能力が不十分な外国人の主な困りごとについて、下記のとおりまとめる。

| 分野 | 集計結果 | 分析結果 | 今後の取り組み | 該当資料 |
|----------------------|---|---|---|------|
| (1) 生活上 の困りごと | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き 60.9% 役所などでの手続き 58.6% 新聞・雑誌を読むこと 54.9% | <p>日常会話はできるが、読み書きのハードルが高い。</p> <p>➡必要に迫られて、役所や銀行・病院などを利用せざるを得ないときに困ることが多いと推測される。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日本語学習機会の充実 継続調査による困りごとの深掘り | 5ページ |
| (2) 困りごと の相談相手 | <ul style="list-style-type: none"> 家族や親戚 62.6% 同国人の友人や知人 46.4% 足立区の相談窓口 9.4% | <p>区の窓口相談する割合は低く、家族や同国人のコミュニティの中で解決が図られている可能性が高い。</p> <p>➡正確な行政情報に辿り着けず、誤った情報を信じてしまうおそれがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 正確な行政情報の提供 継続調査による外国人コミュニティの実態把握 | 6ページ |
| (3) 災害時 の心配ごと | <ul style="list-style-type: none"> 家族との連絡がとれない 56.0% 多言語での相談先が分からない 30.6% 避難情報や指示が理解できない 29.0% | <p>家族と連絡がとれなくなることへの心配が最も高いほか、言葉が通じないことによる不安が大きいことが分かる。</p> <p>➡災害時における外国人の孤立、避難所の混乱が想定される。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 外国人への防災啓発 災害時における情報発信の充実 | 7ページ |
| (4) 進学希望 と困りごと | <p>【進学希望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の高校への進学希望 56.6% 日本の大学等への進学希望 53.1% <p>【困りごと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生と言葉が通じない 17.0% 子どもが就職の際に差別されないか不安 14.9% 学校からの連絡内容が分からない 14.3% | <p>日本の高校・大学への進学希望が高い一方で、日本語能力が不十分な外国人の保護者は学校との意思疎通に困っている。</p> <p>➡子どもの学校生活や進学へ影響を及ぼす可能性がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 外国にルーツを持つ子どもの学習支援の充実 保護者の困りごとに対する支援の充実 | 8ページ |

4 - (1) 日本語能力が不十分な外国人の生活上の困りごと

- ・ 読み書きに関することをあげる割合が高い。
- ・ 日常会話は何とかこなせていると思われる。

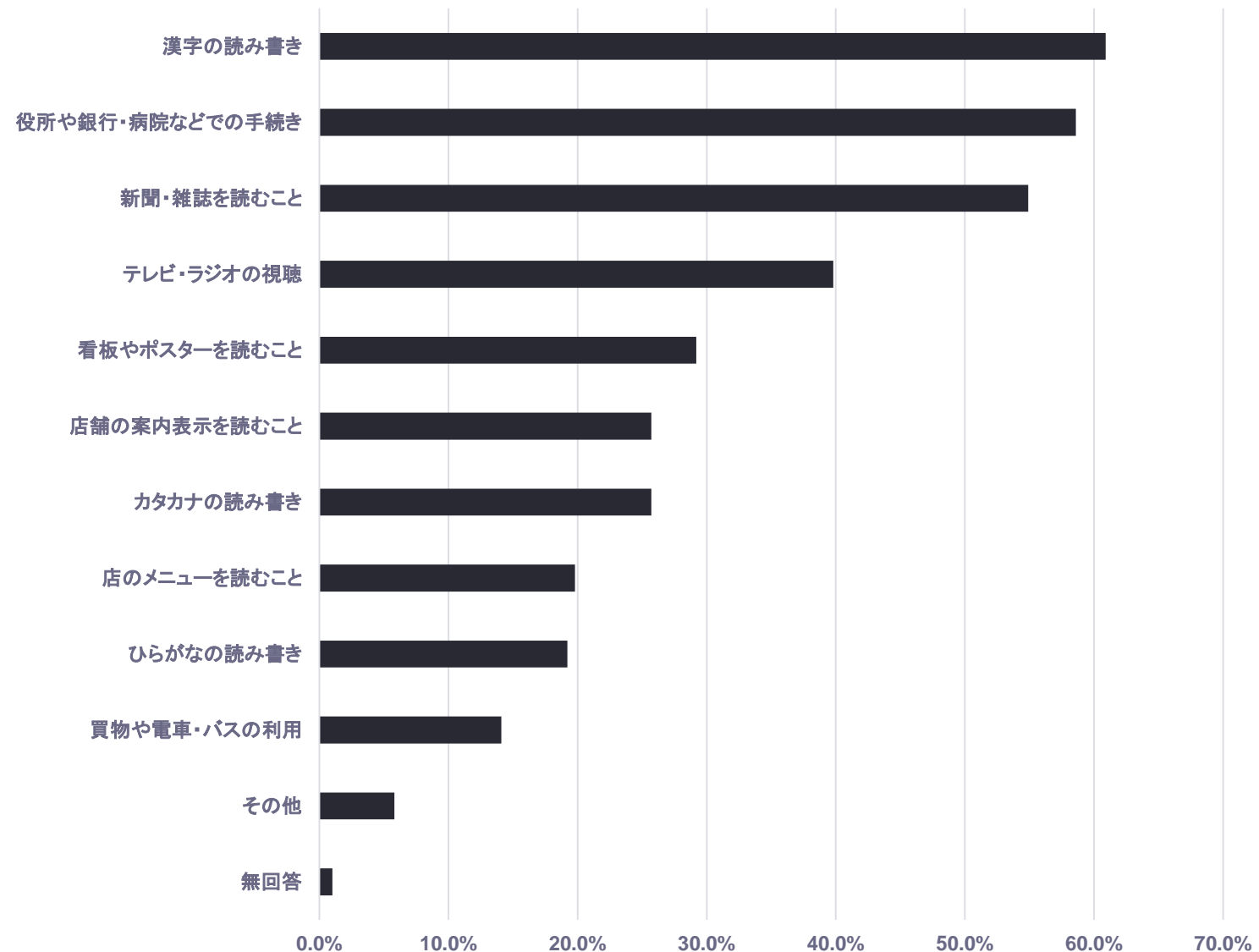


役所や銀行・病院など、日常的に利用することはないが必要に迫られて利用せざるを得ない場面で困る場面が多いと推測されるが、一過性のため表面化しにくい。



- ・ 一般的な日本語教室に加えて、身近な生活の場面にきめ細かく対応した日本語学習の機会を提供するなど、日本語学習機会の充実により、日本語レベルが向上することで困りごとの軽減が期待できる。
- ・ 今後、継続調査を実施し、困りごとの具体的な内容について深掘りし、効果的な支援につなげたいと考える。

日本語能力が不十分な外国人の生活上の困りごと



4 - (2) 日本語能力が不十分な外国人の困りごとの相談相手

家族・親戚（62.6%）や同国人の友人・知人（46.4%）をあげる割合が高い一方で、足立区の相談窓口（9.4%）を挙げる割合は低い。

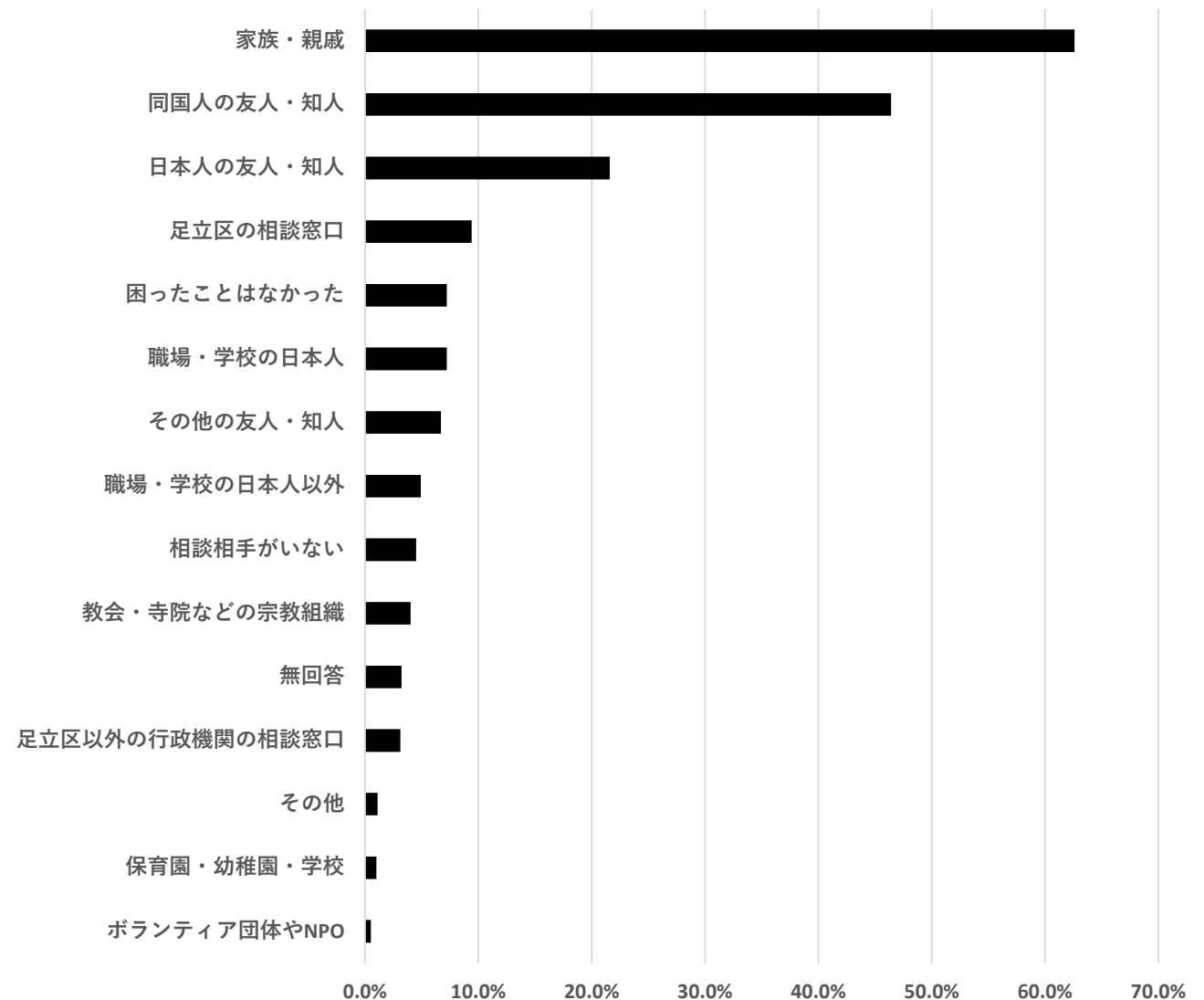


家族や同国人のコミュニティの中だけで困りごとの解決が図られることにより、正確な行政情報に辿り着けていない可能性がある。



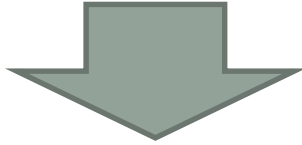
- 区ホームページの自動翻訳機能の周知や翻訳精度の向上、対応言語数の拡大により正確な行政情報の提供を目指していく。
- 継続調査で外国人コミュニティの実態を把握することにより、これまで行政の支援が行き届いていなかった課題や解決のためのアプローチの方法が見えてくる可能性がある。

日本語能力が不十分な外国人の困りごとの相談相手



4 - (3) 日本語能力が不十分な外国人の災害時の心配ごと

家族と連絡が取れない（56.0%）ことや、多言語での相談先が分からない（30.6%）など、人とのつながりが途絶えることや言葉の不安を挙げる割合が高い。

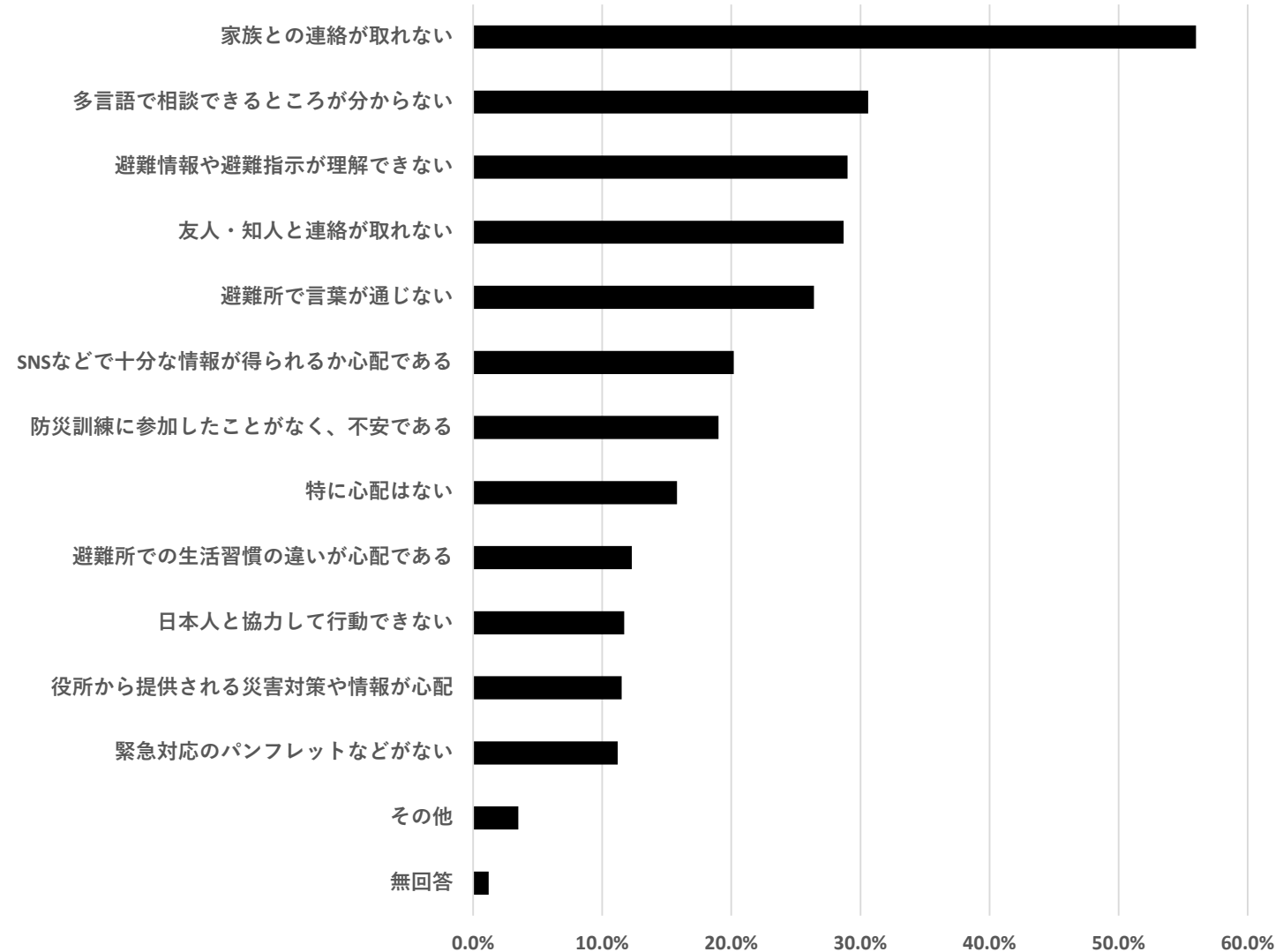


災害時における外国人の孤立、避難所での混乱が想定される。



- 家族と避難所を確認しておくなど、外国人にも分かりやすく防災啓発を行い事前準備を促すことで、災害時の外国人の孤立を減らすことが期待できる。
- 自動翻訳機能が既に備わっている区ホームページからの情報提供に加え、今後稼働を予定している災害情報システムによるリアルタイムな多言語情報発信など、災害時における情報発信の充実に努める。

日本語能力が不十分な外国人の災害時の心配ごと



4 - (4) 日本語能力が不十分な外国人の進学希望と困りごと

日本の高校や大学等への進学希望が高い一方で、先生と言葉が通じない (17.0%) など、**学校との意思疎通に困っている。**



子どもの学校生活や進学へ影響を及ぼす可能性がある。



- 子どもの日本語能力と学力や進学との関係性など、継続調査による詳細な分析を進め、進路指導も含めた**学習支援の充実**を図る。
- 学校との意思疎通など、**保護者の困りごとに対する支援の充実**に努める。

